

令和6年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校名	府立 西寝屋川 高等学校
校長名	谷廣 進一

開催日時	令和 6 年 7 月 3 日(水)
開催場所	府立西寝屋川高等学校 1階 校長室
出席者(委員)	近藤(摂南大)、田中(キャリア)、北川(自治会) 久保(PTA)、井上(キャリア)
出席者(学校)	谷廣(校長)、藤井(教頭)、畑(事務長)、中島(首席)
傍聴者	なし
協議資料	・令和6年度学校経営計画 ・令和5年度進路状況(42期生) その他資料:西寝屋川高等学校パンフレット、令和7年度使用教科用図書選定理由書 西寝屋川高等学校スクールポリシー
備考	

議題等(次第順)

- ① 学校運営協議会について
- ② 令和6年度学校経営計画について
- ③ 令和5年度の進路状況について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

①令和6年度学校経営計画について

【運営協議会委員からの意見】

- ・「残業時間を減らす」と「一人ひとりに寄り添う」は矛盾していないか。
→寄り添う時間ではなく、生徒対応の質や姿勢の向上をめざす。
- ・授業アンケートの生徒の記述内容等を有効的に活用してはどうか。
- ・特定の教員が超過勤務となっているが、それは仕事の内容によるものなのか。
→仕事の内容によるところも大きい。業務分担の偏りが少なくなるように改善を図る必要がある。
- ・生徒の個人情報をもっと効果的にキャリア教育にいかせれば、「一人ひとりに寄り添う」教育となるのではないか。
- ・生徒対応や保護者対応で新たな手立てを考えてはどうか(オンラインの活用など)。
- ・働き方改革の推進のためには、教員数の増加がマストではないか。
- ・非正規職員に関してはビジネス経験がある人がよいのではないか(労務や人事などの経験がある人材)。
- ・いろいろなキャリアを経験した教員の登用は、就職を希望する生徒にとっては非常に有用である。
それが、西寝屋川高等学校の特色になるのではないか。
- ・「一人ひとりに寄り添う」に新たな工夫はできないか。
クラスやクラス担任であらゆることを固定せず、生徒の特性に応じて柔軟に運営してもいいのではないか(例えば「総合的な探究の時間」において)。

②令和5年度の進路状況について

- ・42期生の進学状況はこれまでと傾向が違う。
- ・求人増加に伴って、本校生徒に合った就職先を精選する必要があるのではないか。
卒業生のフォローを含め、本校生徒に合った企業研究を積み重ねる必要がある。
- ・将来の職業を意識せず専門学校を希望する生徒が多いのではないか。本校卒業生の専門学校卒業後の動向を注視する必要がある。
- ・進路先の卒業生の生の情報(体験談や入学後の様子)を得られる機会があればいいのではないか。

【その他】

- ・令和7年度の教科書選定の報告

次回の会議日程

日時	令和 6 年 11 月
会場	府立西寝屋川高等学校1階校長室